

Youthful Days + PLUS

～YA大賞発表号～

Vol. 115
秋号

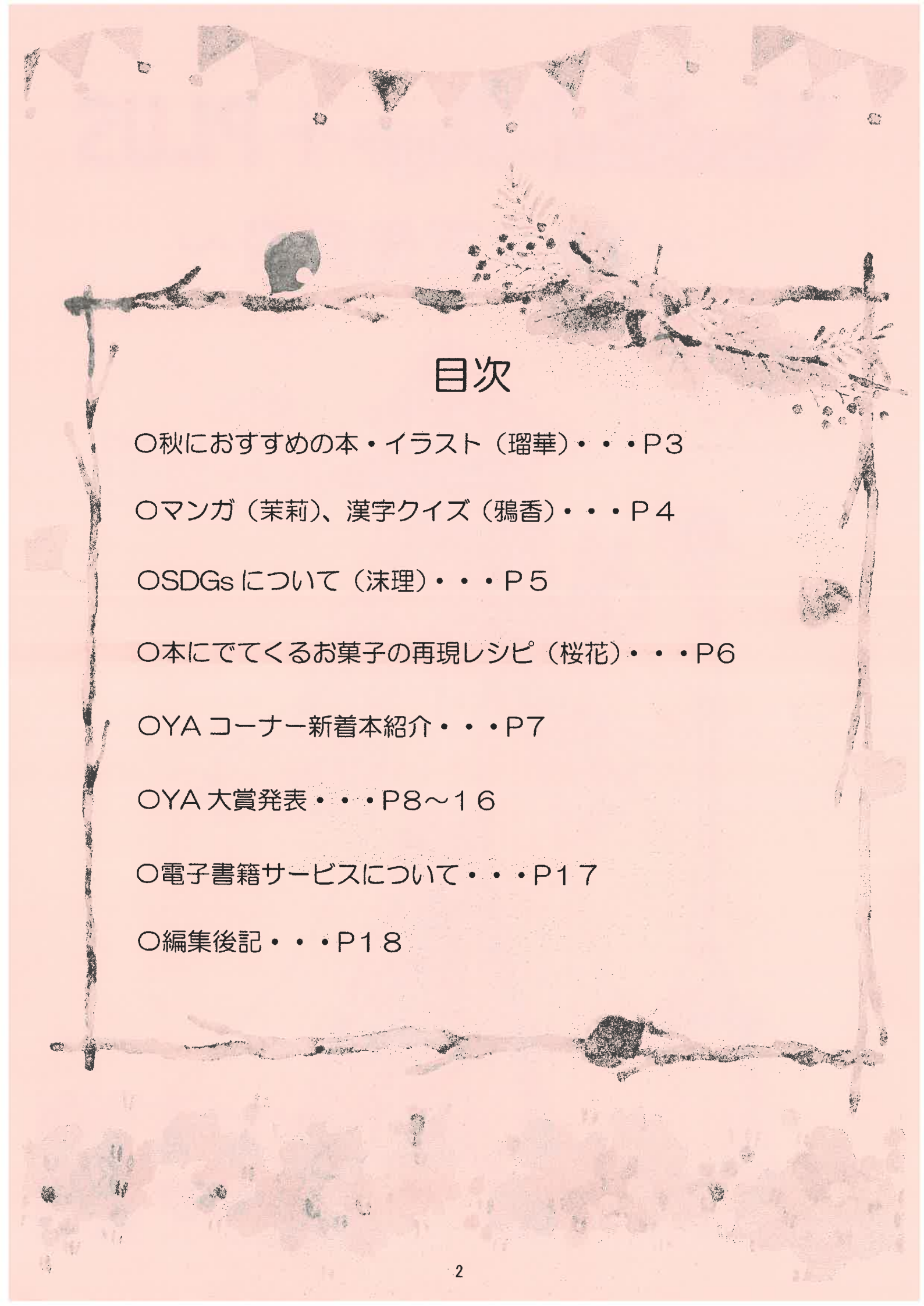
発行元

相模原市 橋本図書館

TEL 042-770-6600

FAX 042-770-6601





目次

○秋におすすめの本・イラスト（瑠華）・・・P3

○マンガ（茉莉）、漢字クイズ（鴉香）・・・P4

○OSDGs について（沫理）・・・P5

○本にでてくるお菓子の再現レシピ（桜花）・・・P6

○YA コーナー新着本紹介・・・P7

○YA 大賞発表・・・P8～16

○電子書籍サービスについて・・・P17

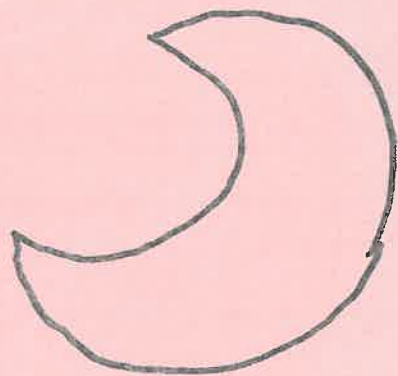
○編集後記・・・P18

読書の秋にオススメ!! 秋にオススメの本

『夜のピクニック』

恩田陸 / 著

新潮社



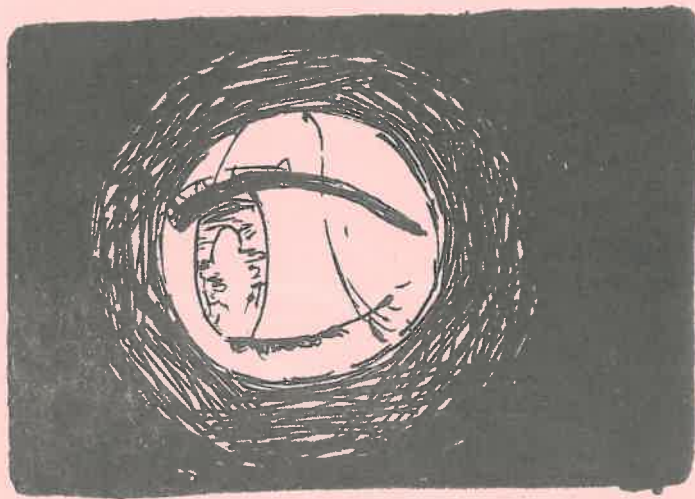
中高生の秋は、行事が
沢山あり、その中で友情などの
ドラマを経験する忘れられない
季節。そんな季節を過ごす
中高生におすすめです!



瑠華

瑠華「落ち葉」





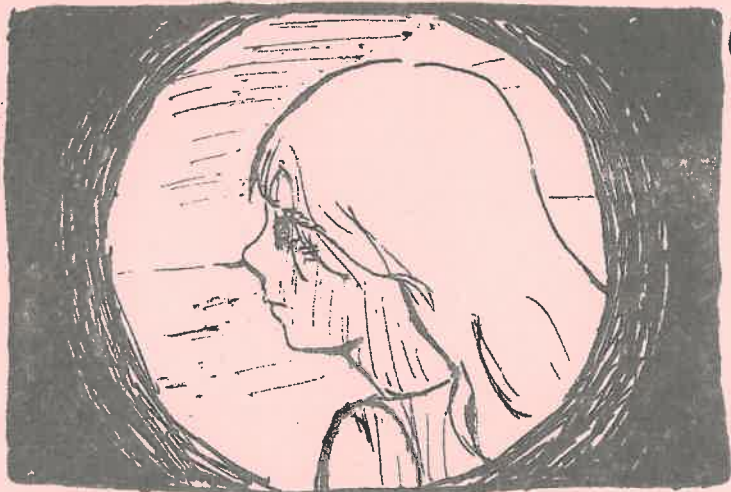
③



①



④



②

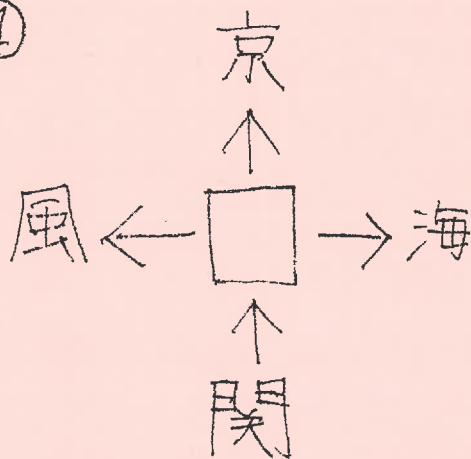
「晩か」茉莉

題名に二つの意味が入ってます。

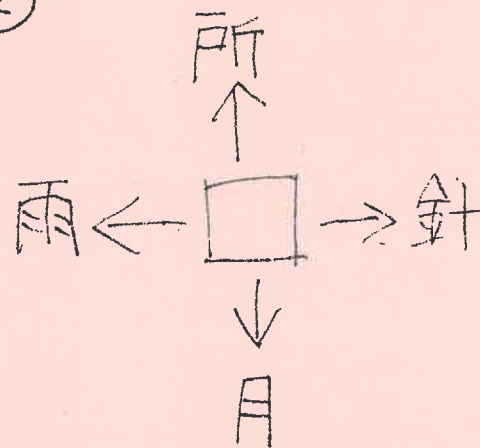
和同開珞
あとうかいちん
クイズ!!

矢印に^そ沿って読むことで「4つの^{じやくご}熟語が
成り立つように中央の四角に漢字一文字を
当てはめるクイズ」だよ!やってみてね!

①



②



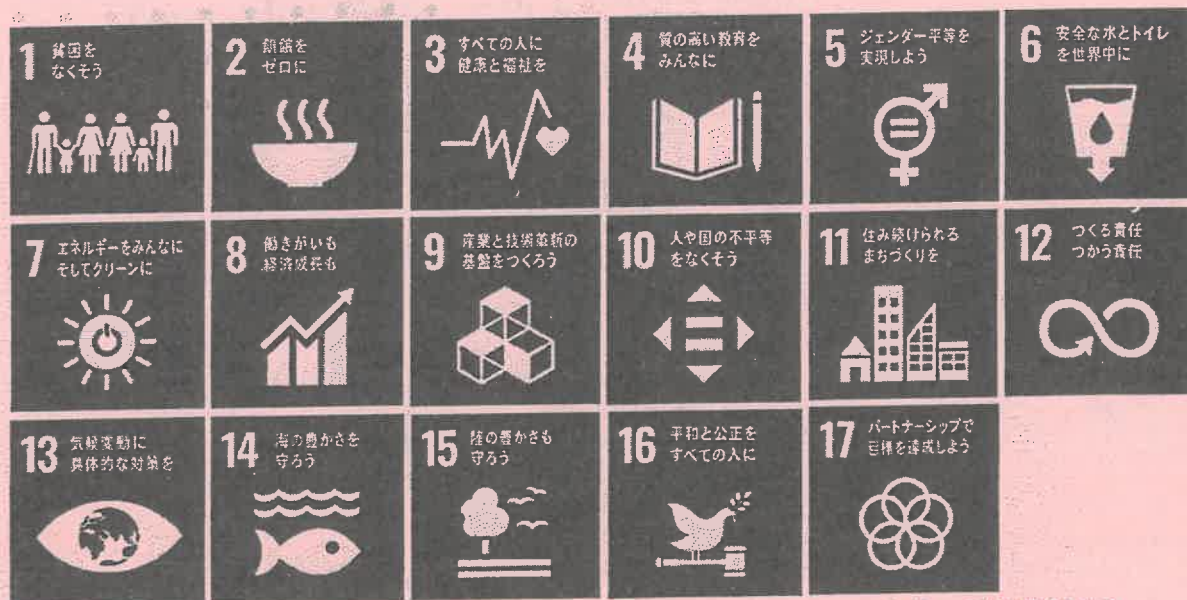
解けたかな?

今回は難しい読み方の漢字も入ってるよ。
漢字が面白いって感じてくれたらうれしいな!

私たちにできる SDGs とは？

SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」と訳されています。経済・社会・環境の3要素のバランスのとれた世界を目指すための、2016年から2030年までの国際目標です。

SDGsには17の目標と169のターゲット（具体的な目標と実施手段）が設定されています。



出典：国連広報センター

私たち消費者ができる SDGs は エシカル消費 です！！

エシカル消費とは、
地球環境や社会、地域に配慮して消費をすること。

例えば、

エコ商品やリサイクル商品、地元の商品、フェアトレード商品を購入する。

水筒を使う。マイバックを持ち歩く。詰め替え商品を購入する。

食べ残しをしない。ゴミの分別をする。

など！是非実践してみてください♪

(検索🔍フェアトレード)

更に詳しく知ろう！～おすすめの本～

『身近でできる SDGs エシカル消費 1～3』 著者：三輪昭子 出版社：さ・え・ら書房

『14歳からの SDGs あなたが創る未来の地球』 編者：水野谷優 出版社：明石書店

沫理

本好きのカトルカール

本好きの下剋上第一部Ⅲ(文庫版では第一部5)が登場したお菓子、「カトルカール」を食べみたい!ということで本の描写を参考にして作ってみました!レシピは下のようになっています!

材料

卵 … 2個
砂糖 … 120g
小麦粉 … 120g
バター … 120g

作り始める前に

- ・お湯をわかしておく。(湯煎をするため)
- ・型にオーブンペーパーをしか、バターを塗ってうすく小麦粉をはたく。
- ・バターをとかしておく。
- ・オーブンを180度に予熱する。

作り方

1. 卵と砂糖をボウルに入れ、火はだ程度のぬるま湯で湯煎しながらもったりするまでミキサーで泡立てる。
2. 小麦粉をふるいながら入れ、泡をつぶさないようにヘラですくく混ぜる
3. バターを入れ、泡をつぶさないように混ぜる。
4. 型に流し込んで2、3回平らな所に落としたら、オーブンで35~40分焼く。
5. 少し冷めてから型をはずす。

完成!

★ラップにくるみ、冷蔵庫で3日程度おいた方がしっとりしておいしくなるよ!

◎参考にした本

香月美夜/作 椎名優/絵

「本好きの下剋上 可憐になるためには
手帳を運んでいく本 第一部兵士の娘Ⅲ」

図書館には第一部Ⅰから第5部Ⅺまでと文庫版の第一部Ⅰから第一部Ⅶまでの計39冊が置いてあります。また、電子書籍サービスでは、文庫版の第一部Ⅰから第二部4までが読めます。ぜひ読んでみて下さい! (2023年9月現在)

桜花

Youthful Age

コーナー 新着本紹介

(2023. 7月～10月受入分)



YA913／イワセ『真昼のユウレイたち』

岩瀬 成子／作 偕成社

子どもたちがユウレイに出会う4つの物語が収録されています。このユウレイたちは、生きている大切な人のことを想い、優しくそっと近くで見守っています。一緒に話しをしたり、パイナップルを食べたりと、ユニークな一面も。子どもたちは最初戸惑いますが、少しずつ受け入れていきます。日常の中で起こる不思議な体験をしながら、子どもたちは成長していきます。ユウレイたちの温かい優しさがあふれている物語です。



YA496／黒『ふせごう! デジタル近視』

北明 大洲／監修 旬報社

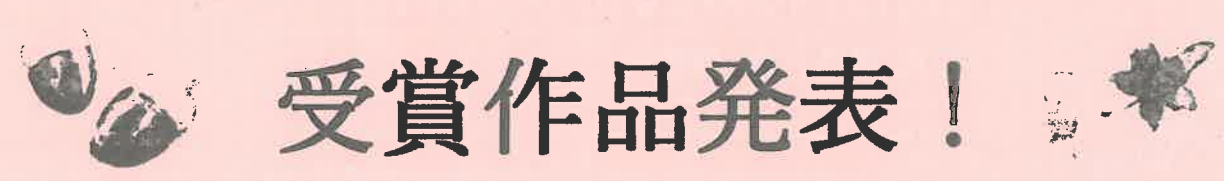
スマホやタブレット、パソコンはとても便利で、毎日の生活に欠かせないものとなりました。しかし、それを見続けていると目に負担がかかり、近視の原因になるといわれています。それはなぜでしょうか? この本では「目」について、ものが見える仕組みをはじめ、さまざまな知識をたくさんのイラストを使って分かりやすく説明しています。みなさんの大切な目を守るために、まずは正しい知識を身につけることから始めてみませんか。

その他おすすめ新着図書

分類	書名	著者名	出版社名
YA159	14歳からの自己啓発	尾崎 俊介／著	トランスビュー
YA210	戦争と人びとの暮らし 上・下	半藤 一利／著	平凡社
YA361	10代のうちに知っておきたい言葉と心の切りかえ術	大野 萌子／著	笠間書院
YA367	おしえてジェンダー! 「女の子だから」のない世界へ	プラン・インターナショナル・ジャパン／編	合同出版
YA376／赤	商業科高校	大岳 美帆／著	ペリかん社
YA480	私の職場はサバンナです!	太田 ゆか／著	河出書房新社
YA804	ことばの白地図を歩く	奈倉 有里／著	創元社
YA913／マエカ	藍色時刻の君たちは	前川 ほまれ／著	東京創元社
YA929／ファン	優等生サバイバル	ファン ヨンミ／作	評論社
YA931／アレグ	クロスオーバー	クワミ・アレグザンダー／作	岩波書店



Y A大賞2023



受賞作品発表！

短編小説部門4作品、川柳部門3作品のご応募ありがとうございました。

選考の結果、受賞作品は次のように決定しました。

<短編小説部門> 大賞

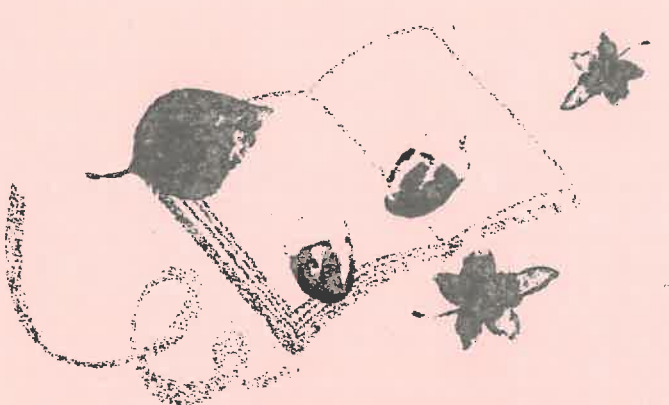
『星降る線喫茶店～北斗七星の片割れの願い～』

山野 紗世／作

<川柳部門> 大賞

『親友に 君が好きだと 言えぬ日々』

緋月 怜／作



受賞者のお二人には、副賞として図書カードを差し上げます。



作品を読み終えて

今年でYA大賞は19年目を迎えました。

短編小説部門4編、川柳部門3編の応募がありました。短編小説部門ではYA世代ならではの恋愛や、SF、ファンタジーなどその年ごとに現在の時代背景が伺える作品が登場しますが、どの作品もテーマや構成に工夫があり、楽しく読ませていただきました。

川柳部門では一般投票も行われました。コロナ禍で過ごしたYA世代らしい作品も見受けられました。どの川柳も短い言葉の中に感情が素直に表現された素晴らしい作品でした。

みなさんのご応募、本当にありがとうございました。

今回は小説と川柳に1作品ずつ応募してくれた方もいました。私たちスタッフは毎年、どんな作品が届くのかをととても楽しみにしています。

来年度も多くの作品に出会えることを願っています。初めての方も、2回目、3回目、それ以上の方もぜひご参加お待ちしております。

橋本図書館 YA大賞担当

★橋本図書館のスタッフからのコメントを一部ご紹介します★

【短篇小説部門】

大賞受賞作品 『星降る線喫茶店～北斗七星の片割れの願い～』

・「北斗七星」や「星降る線喫茶店」「常世、現世、隠世」など細かなストーリーの世界観がしっかり決められて読みやすかったです。また、状況を細かく書かれているので、想像しながら読む事ができました。

・あたたかくて優しいお話でした。登場する人やモノのネーミングが、徹底して北斗七星を意識していて、作者の世界観へのこだわりがひしひしと感じられました。

・子どもの死、という人生においてこの上なく辛い経験を2度も両親に味わせないために、自分が先に行って姉を（見）守る役目を引き受けた弟と、それと知らないまでも、その意を汲んで現世に戻ることを決意した姉。この設定に暖かいものを感じた。SFを、親しみを感じる文体で表現していて、わかりやすく読み応えのある作品だった。

【川柳部門】

大賞受賞作品 『親友に 君が好きだと 言えぬ日々』

・親友だから、気持ちを伝えることで関係が変わってしまうことを恐れて言えずにいるのかなという想像をしました。親友と日々というワードが、近くにいるのに言えないせつなさが出ていていいと思います。

・親友が同性だから言えないのか、友情が壊れるから言えないのか、読み手の想像次第で雰囲気が変わって見える作品だと感じました。

・衝撃を受けた情熱的な作品でした。すべての人が作品を読んでドキッとしたと思います。これだけ気持ちをストレートに書けるのは、作者の今の年代でないと書けないかなと思い推薦しました。親友の性別は問いませんが、近しい間柄であればあるほど、実は好きなんだと、告白するのは勇気がいりますね。たった一言で、もしかしたら違った付き合い方ができるかもしれないけれど、そんなことを言われたら友だちでいられないと、拒絶されるかもしれない。その苦しい気持ちが伝わりました。

川柳部門 大賞受賞作品

緋月 怜／作

「親友に 君が好きだと 言えぬ日々」



短編小説部門 大賞受賞作品

星降る線喫茶店～北斗七星の片割れの願い～

山野 紗世／作

ここは常世と現世の間にある隠世。隠世は死者の魂が最初にたどり着く場所だ。隠世は、かがみ湖と呼ばれている湖の上にある小さな島・星降る島の事。そこに行けるのは、たった1本の路面電車。その電車の後方2両は、ちょっと不思議な車両だった。

はっ

車内にいる1人の少女が目を覚ます。少女の最後の記憶は、電車に乗っていて読書をしていたら車両が大きく揺れて倒れたことだ。

ここは、どこ？

キョロキョロと周りを見回すと、少女はかすかに隣の車両から音楽が流れてくるのが聞こえた。

席から立ち上がり、進行方向とは反対側に歩いていく。

隣の車両との間の扉には、看板がかかっていた。

「星降る線喫茶店」

気になった少女は、おそろおそろ扉を開ける。

カラン、カラン

1番後ろの車両は、1両丸々喫茶店になっていた。昔ながらのレトロな喫茶店。この喫茶店の内装は、少女のよく知っている喫茶店の内装とほとんど一緒だった。

そして少女の目の前には、エプロン姿で背の高い男の人が1人立っていた。

「いらっしゃいませ、星降る線喫茶店へ。星里七星さん。」

「え、な、何で私の名前を…。」

「なんとなくですよ、なんとなく。私の勘は、よく当たるのです。」

「は、はあ。」

入らなければ良かったと後悔する少女・星里七星。

「僕は、星都北斗と申します。ここの喫茶店のバリスタなんですよ。こう見えて、16歳なんです。」

「え、私と同年なんですね！」

16歳のバリスタとは思えないほど大人びていて、身長が170センチ以上ある男の子が自分と同年だということに驚く七星。

「立ち話は疲れますし、どこかお好きな席にお座り下さい。」

北斗は七星を好きな席に座るようにと促すと、カウンター裏の調理スペースに入っていた。

七星は窓際の席に座り、ボーっと車窓を眺める。

満天の星空に浮かぶ天の川は、竜が天へ向かっていく様に見える。

七星が車窓を眺めていると、ふといい香りが彼女の鼻孔をくすぐった。

「お待たせしました。北斗七星ケーキと、ミザールのフルーツティーです。」

北斗がそう言うと、七星はキョトンとしてしまった。

「え？私、何も注文していませんよ。」

七星がそう言うと、北斗はクスッと笑ってから言いはじめた。

「ここでは僕が、お客様に合った物を出すことになっているんです。」

「あ、そうなんですか、ありがとうございます。」

七星は北斗七星ケーキの上にのっかっているフレッシュなブルーベリーから食べる。

あ、美味しい。北斗七星ケーキは、名前の通り北斗七星の形をしているブルーベリータルト。誕生日にお母さんが作ってくれたブルーベリータルトより、生地がしっとりしている。このフルーツティーも温かくて、あったまる。

って、このフルーツティーの名前、何だったっけ？聞き覚えのある名前だったんだよね。

「あの、星都さん。」

七星は、カウンターに戻っていた北斗に、勇気を出して話しかける。

「このフルーツティーの名前、何という名前でしたっけ？」

七星がそう言うと、北斗は笑顔で七星の問いに答えた。

「ミザールのフルーツティーです。」北斗が答えると、七星はポツリと言う。

「ミザール…。」

それは、七星のお気に入りの場所の名前だった。

「星里さん、どうかしましたか？」

北斗に心配された七星は、はっきりと言う。

「ミザール…。ミザールは、私の両親が経営する喫茶店の名前なんです。」

そう言いながら、七星は店内を見回す。

そう、星降る線喫茶店は、七星の自宅・ミザールの店内とそっくりなのだ。

「僕は、北斗七星にある星から名前をとったのですが、星里さんのご両親もそこからですか？」

ミザールとは、北斗七星をつくる星の中の1つの名前だ。

「はい。私の両親は共に天体が好きなんです。」

「そうなんですね。」

そう北斗が言うと、七星は反応をせずにケーキを食べた。

七星が食べ終わったのを確認してから、北斗は話し始める。

「星里さんは、ここがどこかご存知ですか？」

「どこって…。分かりません。」

「ここは、隠世と呼ばれる所に向かう電車、星降る線です。」

「か、隠世？」

七星がこの世界に来る前まで電車で読んでいた本が、隠世を舞台にした物語だったためその世界に入ったと思い込んだが、どう考えてもその世界と違うことに気づき、北斗の説明を聞くことにしたのだった。

「隠世とは、死者の魂が最初にたどり着く場所のことです。そこに行くためには、この電車に乗らなくてはならないのです。隠世に行くのは、この電車の1、2両に乗っている人達です。」

「じゃあ、この喫茶店と3両目はなんなのですか？」

七星のふとした疑問に、北斗はゆっくりと話し始める。

「この後ろ2両には、死者として扱われていない人が乗っているんです。」

「死者として、扱われていない…？って、私がそうなんですか？」

「…そうですね。大体死者として扱われていない人の大半は、現世にとっても強い意思を残した人なんです。星里さんは、何か強い意思を残したのですか？」

「強い、意思…。」

七星は、記憶を辿りながら現世に残りたかった意思を探す。

あった。

「多分、私の弟のことだと思います。」

「弟さん、のことですか？」

七星は絞り出すように語り始めた。

「私には、生まれて直ぐに亡くなった双子の弟・北斗がいたんです。あ、名前は星都さんと同じですね。」

「あ、そ、そうですね…。」

「親からはよく、子どものうちに死なないでくれ！と何度も言われていたんです。そう言われていたのは、弟の事があったからだと思います。それなのに私が子どものうちに死んで、両親を悲しませたくなかった。どうしても、死にたく…なかったんです。」

ポロリと七星は1つの大粒の涙をこぼす。

北斗は七星にハンカチを渡すと、ガサゴソとポケットを漁る。

「星里さん。あなたが亡くなった理由、知りたくありませんか？」

「…知り……たいです。」

そう七星が言うと、北斗はポケットから新聞を取り出した。

「これです、あなたが亡くなった理由。」

『電車脱線 死者137人 負傷者643人 意識不明者5人』

それは、電車が脱線したという新聞記事だった。

「星里さん。あなたはこの脱線事故で意識不明の重体になっているのです。」

「脱線事故…？ウソでしょ…。」

七星の頭の中は真っ白。そんな七星の耳に入ってきた言葉は驚くべきものだった。

「星里さん、今ならまだ選べますよ。このまま常世に行くのか、現世に戻るのか。」

「な、なんで選べるのですか？」

「まだ、あなたの体と脳は動いているんです。頑張れば生きられます。言ったでしょう、死者として扱われていないって。」

「あ…。」

七星がじっくり考えていると、窓の外を見ていた北斗が焦り始めた。

「ほ、星里さん。早く決断しないと、現世に戻れなくなります！」

「な、何故ですか！？」

「あそこに島が見えるでしょう。あれが隠世です。隠世に着いたら、もう現世には戻れなくなるんです！」

「も、戻れなくなる！？」

七星は落ち着いて考え始めた。

今、亡くなるまでずっと考えていたこと。

「亡くなった双子の弟の分まで生きる」これを実現させたい。だから、現世に戻る。

「母さんと父さんに、恩返しを弟の分もしたい。私、現世に戻ります。」

「…分かりました。そしたら星里さん、この鍵を使ってあの扉を開けてください。あなたの思いが強ければ、きっと現世に戻れます。」

北斗の差し出したその鍵は、アンティークショップで売られているような綺麗な鍵だった。

「ありがとうございます、星都さん。」

七星は北斗から渡された鍵を手にし、北斗の指さした扉の鍵穴に鍵をさしこむと半周鍵をまわす。カチャンと音が店内に響き渡り、七星は扉を開ける。

すると光が店内に入ってきて来たと思ったら、七星を連れて直ぐに消えてしまった。

「どうか元気で、七星お姉ちゃん。」

そう北斗が呟いた言葉が、七星には聞こえたのだろうか。

北斗七星は人間の人生を見守る星。

だから北斗は先に行ったのだ。姉の七星が後から来られるように。弟だから後に行くのではなく先に行った。

北斗と七星の両親の気持ちは、果たして二人に届いたのだろうか…。



知ってる？ 電子書籍サービス

2022年9月1日から電子書籍サービスが始まりました。もう利用したことがある人もいるかな？相模原市内に住んでいる人、相模原市内の学校に通っている人なら、電子書籍サービスのホームページから利用申請すれば誰でも利用することができます。図書館の窓口で利用申し込みをすることもできます。
※利用にはIDが必要です。IDは図書カードについているNをとった番号か、学校から配布されたIDがある人はそれを使ってね！

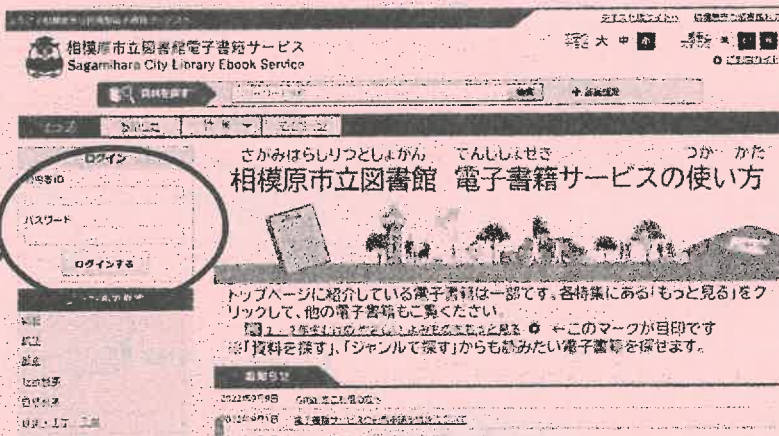


まずは“相模原市立図書館電子書籍サービス”を検索！

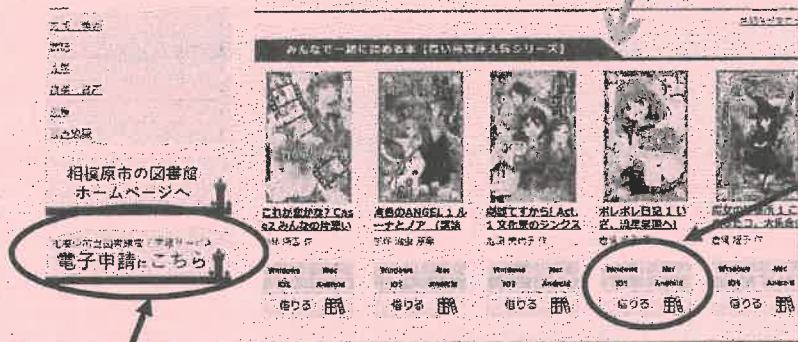
ログインしてみよう。

IDとパスワードを入力！

※図書館のマイライブラリーとは別にパスワードを設定する必要があります。



下にスクロールしていくと……



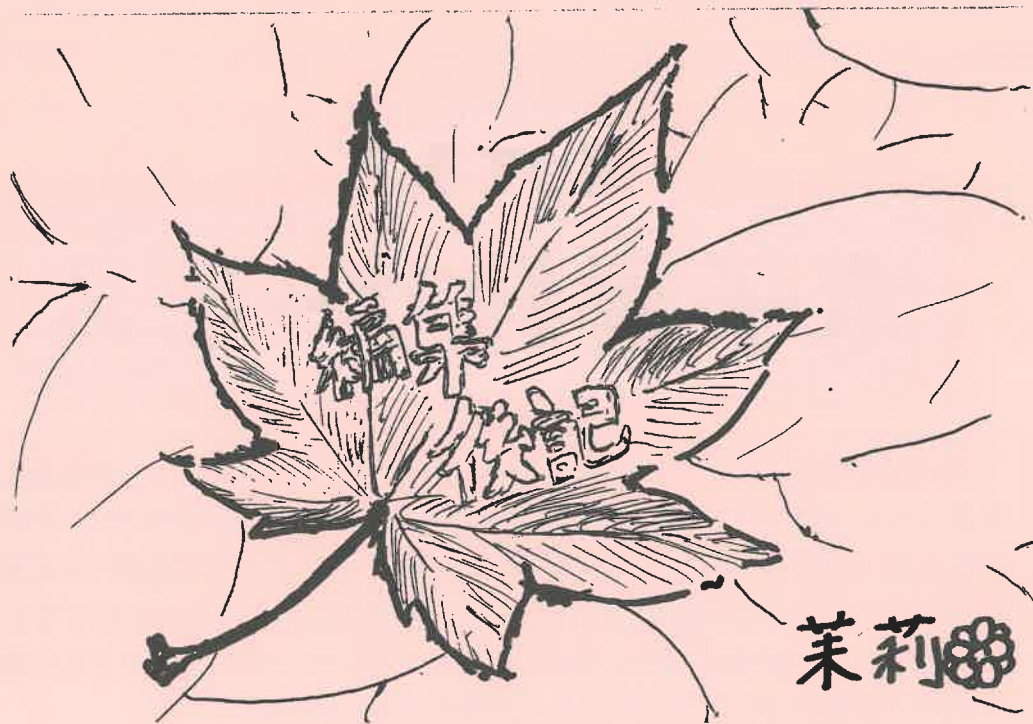
電子書籍の表紙が出てくるよ！
読みたい本を選んで“借りる”ボタンをクリック！
※借りられている本には“予約する”と出ているから、予約してね！順番がまわってくると借りられるよ！

利用申請がまだの人は
ここのバナーから
申請してね！

★借りられる本は2点まで、貸出期間は1週間です。
(1週間経つと自動的に返却されます)
★人気の本は予約してね！(予約できる本も2点までです。)

スマホでも見られるから、
隙間時間に
本が読めるよ～！





本と共に電車に揺られ
どこか遠くに行きたいな...
——— 茉莉 ———

秋って、
寂しいですね。

沫理

秋といえば体育祭、文化祭!! 行事が沢山あって青春を感じます!! 瑠璃

表紙を書かせていただきました。
漢字は面白いですよ。
ほんとに。☺
(1) 鴉香

今年こそは
栗を食べたい
by 桜花

お知らせ

YD 編集委員募集中!

Youthful Days+PLUS の企画・執筆・編集・製本に参加してみませんか?

次回の会議は10月8日(日) 午後2時から

場所: 橋本図書館 グループ読書室 (変更になる可能性があります)

奥付

Youthful Days+PLUS Y A 大賞発表号 (Vol.115)

令和5年10月1日発行

Youthful Days+PLUS 編集委員会/編著 相模原市立橋本図書館/発行

SDGs
未来都市
さがみはら

